

## 「金沢大学 語学・文学研究」総目次

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金沢大学教育学部国語国文学会 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19628">http://hdl.handle.net/2297/19628</a>

# 「金沢語学・文学研究」総目録

## 創刊号（昭和四十五年三月）

創刊の辞

「真言伝」小考―その構成と説話配列法をめぐって―

藤田 福夫  
原田 行造

「きのふはけふの物語」の「笑い」の発想について

―「中世謎」「俳諧連歌」との比較―

音 誠

「鑑賞の統一と独立」から「文展と芸術」まで

森岡 秀子

下村湖人の思想形成―内田夕闇時代の作品から―

深川 明子

伊良子清白の「漂白」と

石川啄木の「のぞみ」の関連について

藤田 福夫

接頭語について

―笑話本「昨日は今日の物語」を中心に―

三宅伯二郎

資料翻刻・便船集

深井 一郎

石川県珠洲市方言の「ク」と「フ」

川本栄一郎

## 第二号（昭和四十六年十月）

「真言伝」編纂の態度と巻七をめぐる諸問題

―集結部の性格と増補過程の考察を中心として―

原田 行造

申し子譚の一考察

椿における日本人の美意識

―江戸期とそれ以前について―

室生犀星未発表書翰二十一通―「感情」刊行の苦心―

謡曲のことわざ

「きのうふはけふの物語」の表現

―その会話体について―

「野生の稗」の方言分布とその解釈

―富山・岐阜・石川県境地域における―

〔資料翻刻〕.. 便船集(二)

富山県庄川流域における

ズーズー弁の分布とその解釈

## 第三号（昭和四十七年八月）

西行法師における美意識

―枳形本の小色紙における空間意識―

「きのふはけふの物語」の表記について

「沙石集」と「昨日は今日の物語」における

「笑い」の発想について

「読むこと」における発見学習

―「練習人生」（小泉信三）の指導から―

藤島 秀隆

坂下 英子

藤田 福夫

古保 勲

道井 登

真田 信二

深井 一郎

川本栄一郎

藤田 高呼

三宅伯二郎

音 誠一

横山 恵六

教材とする創作童話の価値

—阿川弘之作「きかん車やえもん」から—

深美 和夫

編集後記

#### 第四号 (昭和四十八年十月) 藤田福夫教授退官記念号

あいさつ

『運命』と『宿命』と—『源氏物語』を中心に—

玉上 琢弥

大和物語生田川伝説私見

濱口 博章

幽霊小平次—『東海道四谷怪談』の第四幕目の意味—

阿部 正路

紅葉作『紅白毒餓頭』ノート

土佐 亨

晶子と迢空—近代短歌の評価をめぐっての試論—

島津 忠夫

『独り歌へる』の巻頭歌考

明石 利代

『沙石集』裁判説話の構造

藤本 徳明

—天台本覚思想との関連において—

『東斎随筆』出典考

原田 行造

—説話書承の実態から文学史的意義へ—

室生犀星の初期詩編—『十九春詩集』について—

安宅 夏夫

宮沢賢治の童話におけるモチーフとしての「原点」  
深川 明子

富山県庄川流域における「がんもどき」の

方言分布とその解釈

川本栄一郎

『むかしばなし』の言語位相について

深井 一郎

現代短歌との出会い—中学二年生の授業から—

高見よ志子

西行法師における美意識—枳形本小色紙と曾丹集に

見られる行書と散らし書の相連における一考察—

藤田 苜畔

砺波山手向の神考

小倉 学

藤田福夫教授年譜・論文ならびに著書など

編集後記

#### 第五号 (昭和四十九年十月)

『日本霊異記』下巻第三十六話の成立過程

—道鏡政権の仏教政策と藤原永手—

原田 行造

『発心集』第七「空也上人脱衣奉松尾大明神事」

をめぐる諸問題

藤島 秀隆

定家筆「興風集」メモ—特にその系統—

鉄車 佳司

古浄瑠璃ことわざ—「古浄瑠璃正本集」を主として—

古保 勲

越中五ヶ山方言での連体助詞「の・が」

真田 信治

—その待遇表現上野差異について—

『千尋の浜草』(鵜刻と改題)

深川 明子

—本居宣長の門人加藤吉彦の入門旅日記—

編集後記

第六号 (昭和五十年十月)

増補片山廣子年譜と明治大正期作品抄

『方丈記』ノート

—或いは鴨長明における背理の構造について—

『読むこと』と『書くこと』の関連

—昭和五十五年度新教育課程改革にあたり—

「清十郎ついでんやつこはいかい」の語彙

—句に見られる語彙—

西鶴の文末表現—世間胸算用を中心にして—

藤田 福男

下西善三郎

深美 恵六

道井 登

三宅伯二郎

第七号 (昭和五十二年三月)

『閑居友』における仏性の説話

—先行説話の受容方法と関連して—

紅葉著作小考—異作「夏瘦」について—

鏡花における「民譚」の位相

長塚節の自然描写の方法

—対照、区別、動きを中心として—

古典教材をめぐる単語指導について

犬の鳴声「わんわん」「びょうびょう」について

南加賀地方における「いろり」の

座名の分布とその変遷

深川 明子

高見よ志子

音 誠一

川本栄一郎

第八号 (昭和五十三年一月)

『古今著聞集』巻第四文学第五について

長太貂譚の伝承と展開をめぐる—記録と説教化—

幸田露伴の石橋忍月あて書翰二通

付—田村松魚のこと—

歌舞伎評判記のことわざ—野郎評判記を中心として—

「きのふはけふの物語」の語彙

—金地院本の名詞語彙について—

多和本の祖本 山崎本

「昨日は今日の物語」古活字十行本翻刻

—越中五箇山方言使用者としての—

—一個人の所有する人稱語彙

受贈雑誌一覧

昭和52年度卒業論文一覧

昭和52年度国語科教員担当講義題目一覧

第九号 (昭和五十四年一月)

紫式部の書道観—源氏物語の紙の色について—

石坂洋次郎「美しい暦」考

『仮面の告白』試論

下西善三郎

藤島 秀隆

藤田 福夫

古保 勲

道井 登

深井 一郎

真田 信治

真田 信治

真田 信治

真田 信治

真田 信治

真田 信治

真田 信治

真田 信治

真田 信治

—「仮面」と「告白」の謎をめぐって—

先田 進

金地院旧蔵本「きのふはけふの物語」の音韻について

—その四ッ仮名と開合の仮名遣いについて—

三宅伯二郎

表現力を高めるイメーシ化の一考察

深美 和夫

子どもの読みの意識を大切にす教材研究

横山 恵六

興味・意欲を大切にす授業の条件

越野 尚武

—文学作品の実践を通して—

受贈雑誌一覧

昭和53年度卒業論文一覧

昭和53年度国語科教員担当講義題目一覧

第十号 (昭和五十五年二月)

鴨長明と心

原田 行造

「袖屏風」の成立過程―鏡花と「三洲奇談」(二)―

小林 輝治

谷崎文学典拠雑考

—「人面疽」「美食倶楽部」「青塚氏の話」—

土佐 亨

現代女流作家と「今昔物語集」

—杉本苑子・田辺聖子を中心に—

藤本 徳明

沙石集における漢語の副詞的用法

及び擬態語・擬音語について

音 誠一

珠洲市南山における方言語彙の年齢別分布

川本栄二郎

物語文における教材解釈のありかた

—その授業との関連—

詩の鑑賞の一方法としてのノート作業

—島崎藤村「初恋」の授業をめぐって—

高見よ志子

受贈雑誌一覧

昭和54年度卒業論文一覧

昭和54年度国語科教員担当講義題目一覧

第十一号 (昭和五十六年十月)

『若の衣』の構成とテーマについて

山森 雅樹

謡曲「仏原」考

藤島 秀隆

与謝野寛、同晶子書簡五通

藤田 福夫

程度副詞と文末表現―「ひじょうに」を中心に―

丹保 健一

現代方言における「こおろぎ」と「きりぎりす」

真田 信治

第十二号 (昭和五十八年三月)

源氏物語における紙の種類について

藤田 苜畔

林芙美子「山裾」の位置

森 英一

伊東静雄の批評精神―「わがひとに与ふる哀歌」に

おける「批評詩」をめぐって―

先田 進

伊曾保物語におけることわざ

「てつきやう」「かうこん」考

—大系本「昨日は今日の物語」上巻第六話—

「狂歌」に対する国語学的考察—近世語研究(その三)— 深井 一郎

受贈雑誌一覽

古保 勲

三宅伯二郎

### 第十三号 (昭和五十九年十月)

『多武峯少将物語』冒険部試論

俚諺集覽の小説語について—唐話との関係を中心にして— 下西善二郎

「なぞなぞ春の雪」繚刻・紹介 音 誠一

読みの授業再考—読者論の視点から—

「文明」統記」考(遺稿)

編集後記

道井 登

深川 明子

原田 行造

### 第十四号 (昭和六十年三月)

浦島伝説異聞

—近世加賀の石の木由来の伝承をめぐって—

島田清次郎の中学時代—その知られざる側面—

「きのふはけふの物語」における敬語の実態

「ガ」「ハ」の使い分け—新・旧情報をめぐって—

北方心泉『書法定義』

藤島 秀隆

小林 輝治

吉田 久司

丹保 健一

法水 光雄

受贈雑誌一覽

### 第十五号 (昭和六十一年一月)

紫式部書道観—「源氏物語」における仮名文字—

「清貧の書」と「小区」—林芙美子覚書⑤—

伊東静雄「晴れた日に」試論

—書簡部の解釈をめぐって—

文法教育に於ける諸問題—「用言の活用」について—

小学校六年生の文語意識

見方・感じ方を教える詩の授業—中学一年の授業から— 高見よ志子

受贈雑誌一覽

### 第十六号 (昭和六十二年一月)

万葉七夕歌・二星逢会の表現

イメージを育てる読み—発問考察の基本的観点—

初期喃本におけることわざについて

「百人一首 小倉の山踏」俗語(訳語)について

—その助詞「峯梯・遠鏡・あゆひ抄と比較して

天明八年以前写「女言葉」翻刻

受贈雑誌一覽

藤田 葛畔

森 英一

先田 進

夷藤 保

深美 和夫

高見よ志子

下西善二郎

深川 明子

古保 勲

道井 登

深井 一郎

第十七号 (昭和六十三年一月)

北陸方言の相手尊敬表現について  
方言と共通語—中学校の授業より—

咄本「かの子はなし」について

「弓張月」にみる近世の漢字・漢語  
—現代語との連関から—

『発心集』巻四卷頭部の意味

唐代小説と仏教思想

受贈雑誌一覧

飯豊 毅一

端名 秀雄

音 誠一

水持 邦雄

山本 一

園家 榮照

源氏物語「はなやかなり」について

明治初期における外国地名の漢字表記について

五感語彙の多義性について  
—多義性の意味的広がりをもぐって—

雑誌「朱樂」における「小景異情」の構成

島田清次郎晩年の書簡(二)

—新資料徳富蘇峰記念館蔵七通翻刻—

小学校低学年「詩の学習」実践例と分析

文章を書く楽しさを味わわせるために  
—実践例を中心に—

藤田 莒畔

水持 邦雄

丹保 健一

米倉 敏広

小林 輝治

深美 和夫

鈴木 明

第十八号 (昭和六十四年一月)

『続編 世界商売往来』について

国語教科書接続詞にみる男女差

吉崎の嫁おどし(肉附面)の伝承  
—蓮如伝説の一側面—

林芙美子『稲妻』考証二題

受贈雑誌一覧

吉田 久司

中田 敏夫

藤島 秀隆

森 英一

第二十号 (平成三年七月)

想像力試論—文学教育における重要性—

「十本」は「じっぼん」か「じゅっぼん」か  
—「十」の仮名表記と発音をもぐって—

『方丈記』の和歌的修辭—「ふるさと」と「ふるや」—

『野分』論—周作をもぐって②—

読みが深まる国語教室作り

国語国文学会の広場

国語科における個性化・個別化指導の現状

旅立ち

四十住基子

丹保 健一

山本 一

藤堂 尚夫

板根 順子

深川 明子

宮川美恵子

第十九号 (平成二年七月) 深井一郎教授退官記念号

一提言

深井 一郎

ソフトウェア企業に勤務して  
ヨーロッパ・アメリカ見て歩き

国語教室の近況

〈卒業論文要旨〉 新方言の研究

一九九〇(平成二)年度卒業論文・修士論文題目

## 第二十一号 (平成四年七月)

石川県辰口町方言の動態―十年間の変化と世代差―  
工列長音の表記をめぐって

―「あかんべえ」か「あかんべい」か―

『さんせう太夫』―つし王とその家族について―

書く活動を通して読みを深める指導の研究

―文学教材の「ひとり読み」を中心として―

国語国文学会の広場

手書き文字の将来と研究屋

完結型から発展型の授業へ

ローカル放送局・東京支社の仕事

小売業紹介

三年間を振り返って

或る高校教師の日常 (短歌)

〈卒業論文要旨〉 八大人研究

織田 祥世  
高見よ志子

山本 紀子

加藤 和夫

丹保 健一

池田 晴美

釜石千恵子

押木 秀樹

平塚 光明

北山 三郎

野村久美子

川口 美春

喜多 昭夫

村中 隆之

一九九一(平成三)年度修士論文題目・卒業論文題目  
語学・文学研究執筆要項

金沢大学教育学部国語国文学会会則・会費についての細則

国語教室の近況および移転について

## 第二十二号 (平成五年七月)

『近代の寓話』に描かれた恋愛

言語感覚を豊かにすることは遊びの授業

国語国文学会の広場

海外研修に参加して

私の就職事情をそして現在

教師一年生

或る高校教師の日常Ⅱ (短歌)

〈資料紹介〉坪内逍遙の逸文「止したら何うだ」

〈卒業論文要旨〉グリム童話研究

一九九二(平成四)年度修士論文題目・卒業論文題目

語学・文学研究執筆要項

## 第二十三号 (平成六年七月)

『台記』の西行、『盛衰記』の西行

―西行出家をめぐる言説・再考―

和田康一郎

太田 美穂

大路 邦夫

石済 陽子

中堀 陽子

喜多 昭夫

西田谷 洋

唐津 知佳

下西善三郎

選択教科「国語」の展開

〔翻訳〕 仏教、道教と道学

国語国文学会の広場

副詞的な「あやまりて」についての補足

或る高校教師の日常Ⅲ（短歌）

私の就職事情と裁判所の仕事

警察という職場

〔卒業論文要旨〕 『赤毛のアン』 作品論

一九九三（平成五）年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

高見よ志子

園家 榮照

山本 一

喜多 昭夫

三野 弘恵

原田 貴彦

黒田 智美

「就職」という闘いを越えて

〔卒業論文抜粋〕 『落窪物語』 研究

一九九四（平成六）年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

草野千亜紀

野村 尚美

## 第二十五号（平成八年七月）

「退屈な少年」論―長編の季節―への礎―

近松浄瑠璃のことわざ―時代物と世話物との特徴―

〔国語国文学の広場〕

能登有情(2)

木下順庵と久隈守景

天井の舞

埋蔵文化財センターの仕事

〔研究ノート〕 「気張る」 補考

〔卒業論文抜粋〕

複合辞の研究―「ものだ」と「ことだ」―

研究室だより

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

平成七年度卒業論文題目・修士論文題目

宮脇 公夫

古保 勲

松本 勝雄

森 英一

小西 護

河村 美紀

近藤 明

木村裕美子

## 第二十四号（平成七年七月）

森山啓「収穫以前」の変容

自ら学ぶ力を高める書写の指導

富山・新潟県境域における

アクセントの地域差と世代差

日本語を学ぶ学生のためのコンピュータ入門

〔国語国文学の広場〕

感性を培う俳句指導を通して能登有情(俳句)

「あやまりて」についての再補足

加藤和夫・林 智子

丹保 健一

山本 一

松本勝雄(松魚)

山本 一

山本 一

第二十六号 (平成九年七月) 園家榮照教授退官記念特輯

企図・期待・予想の意の動詞ツ形と非実現性

—「スカヌ」に「ツ」が下接することとの関連から—

「ヲ出る」「カラ出る」の文法—物理的移動の場合—

福井県武生市下中津原町方言の否定の表現

霞とかすみとの問題をめぐつての覚え書き

発話態度と話法—政治小説のアイロニー性—

太宰治「ろまん燈籠」材源考

康成から芙美子へ—ひとつの文学系譜—

谷崎文学の〈母〉

—「幼少時代」・「母を恋ふる記」・「鬼の面」—

粹人 園家榮照先生

漢文が好きだった

園家先生の思い出

園家榮照教授略年譜

園家榮照教授著作論文目録

〈卒業論文要旨〉『自然詩研究』

平成八年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則誌執筆要項

後記

第二十七号 (平成十一年九月)

源氏物語における「うるはし」について

下二段「イアフ」「イアヘズ」の意味展開

「Sッテ」文の分析

—引用標識「ッテ」を用いたストラテジー—

円空

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

後記

平成九・十年度卒業論文題目・修士論文題目

第二十八号 (平成十二年九月)

「サゲル」の意味・用法の変遷

「Sッテ文」伝聞用法の分析

根源的虚構論と関連性理論

国語国文学の広場

俳句(五十句)

子どもたちとの出会いから

教官からの近況報告

金沢大学教育学部国語国文学会会則

藤田 菖畔  
近藤 明

野村 真一  
池之端甚衛

前田 久徳

藤田 菖畔

木越 秀子

畑 真理子

醉水 綾乃

森 英一

横山 総彦

西田谷 洋

山本 一

加藤 和夫

丹保 健一

近藤 明

野村 真一

高木ともえ

野村 真一

西田谷 洋

松本 松魚

林 智子

山本 一

語学・文学研究執筆要項

平成十一年度卒業論文題目・修士論文題目

第二十九号 (平成十三年九月)

芙美子論修正―「稲妻」をめぐって―

中古における四段「アア」について

―「複数主体」と解し難い例を中心に―(上)

ウェブ上の漱石

「想像すること」と「理解すること」

―短歌や和歌の読解から―

国語国文学の広場

心の鍵

短夜

平成十二年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

第三十・三十一合併号 (平成十五年九月)

深川明子教授退官記念特輯

中古における四段「アア」について

―「複数主体」と解し難い例を中心に―(下)

森 英一

近藤 明

藤堂 尚夫

山本 一

青 蛙

喜多 昭夫

「(一七)『動詞連用形』十中」をめぐって

物語の行方―「とりかへばや」の享受をめぐって―

坪野哲久『百花』論

写像と融合

「コミュニケーション文化の創造」をめぐした

「文化的実践の場」づくり

先生とサークルと

先生へのお手紙

「思ヒテ学バザレバ」

深川先生退官に寄せて

深川先生の思い出

深川先生、ありがとうございます

「深川先生の御退官に寄せて」

「憧れの人、深川先生へ」

深川明子教授略歴

深川明子教授著作目録

平成十三、十四年度卒業論文題目・修士論文題目

〈卒業論文要旨〉

外国人児童生徒に対する日本語教育

現代日本語における外来語の研究

語学・文学研究執筆要項

丹保 健一

安倍絵里香

森 英一

西田谷 洋

濱上 薫

田島 弘子

塩野 明夫

牧野 光陽

大路はる子

宮川美恵子

松本 昭子

木下 美穂

宮崎あすか

若宮 文恵

堀切友紀子

後記

第三十二号 (平成十六年九月)

助動詞「リ・タリ」が命令形になる場合

中古文における「完了」と「過去」

一「ス形、イタリ・リ形、ツ形、キ形について」

「仮名遣い」あれこれ

安岡章太郎「質屋の女房」論

国語国文学の広場

分かりやすく、楽しい授業を行うために

・授業でそのまま使えるサイトの紹介

近況報告

〈卒業論文抜粋〉宮本輝 〈川三部作〉一「蜷川」

「泥の河」「道頓堀川」を通ずる一本の〈川〉一

平成十五年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

第三十三号 (平成十七年九月)

「ニクシ」の意味用法の時代的变化

一院政・鎌倉期まで一

ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」備忘

「家族ゲーム」論―シネマ・リテラシーの試み―

石川県小松市における外国人生徒を

中心とした学習支援ネットワーク

国語国文学会の広場

自己紹介

「学生」、この甘美な響き

近況報告―タイの空の下より―

近況報告

平成十六年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

第三十四号 (平成十八年九月)

坪野哲久「嫗遊び」論

子どものコミュニケーション不全と想像力の低下

B29の心象―文学史研究者が見る「戦争教材」―

国語国文学会の広場

近況報告

近況報告

近藤 明

山本 一

前田 久徳

篠田留知亜

折川 司

能登ひとみ

堀切友紀子

矢後 誠

森 英一

折川 司

山本 一

青柳 香里

桂 愛子

白石 晶子

南 朋江

毛利 康子

毛利 康子

南 朋江

白石 晶子

坪野哲久「嫗遊び」論

子どものコミュニケーション不全と想像力の低下

B29の心象―文学史研究者が見る「戦争教材」―

国語国文学会の広場

近況報告

近況報告

〈卒業論文抜粹〉

井上靖研究―「しろばんば」の世界―

平成十七年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

### 第三十五号 (平成十九年九月)

風土と文学―石川の場合―

「秋刀魚の味」の時間―シネマ・リテラシーの試み②―

運転手まついさんとその時代

―文学研究者が読む「定番教材」―

「酌む」「察する」を重視した

コミュニケーションの指導

一人一人の読書意欲を喚起する

学習者同士の学び合いを保証した読書指導

平成十八年度卒業論文題目・修士論文題目

金沢大学教育学部国語国文学会会則

語学・文学研究執筆要項

### 終刊号 (平成二十年十二月)

終刊に寄せて

村西 芳枝

「カネル」「カネナイ」もおける

「話し手の期待」の正負の方向性をめぐって

徳田秋声とイブセン附―エリイダと日本の女翻刻―

「僕」の亡霊たち―村上春樹「鏡」論―

「ソナチネ」の象徴法とその神話的世界

―シネマ・リテラシーの試み③―

おもてに出ない文脈と背景知識

―イースター島についての説明文を主な例に―

〈修士論文抜粹〉

三島由紀夫『禁色』論

―「不在」から「現実的存在」へ―

平成十九年度卒業論文・修士論文題目

「金沢大学語学・文学研究」総目録

森 英一

前田 久徳

山本 一

折川 司

山本 瑞穂

近藤 明

森 英一

西田谷 洋

前田 久徳

山本 一

重吉 舞子

森 英一